

付録資料

<アンケート調査用紙（空き家入居経験者）>

(*何か気がついたことがありましたら、こちらまでご連絡ください。)

空き家移住者の方へ

加子母における少子化対策に関する調査 —空き家活用の課題—

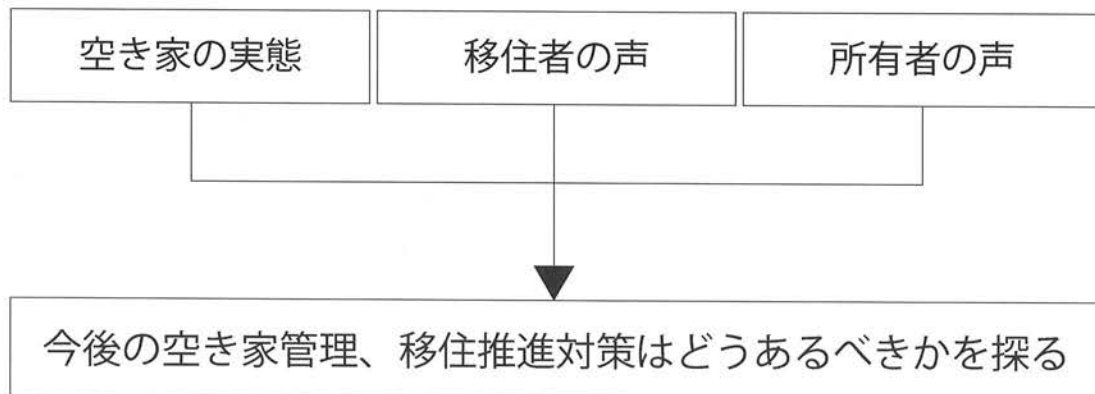
ご協力いただきありがとうございます。

この調査は、加子母における少子化に伴う空き家対策のヒントを探るものです。

移住者の方を対象に、加子母へ移住する過程や、移住後の生活、地域との関係、そして住まいに関すること
分析することで、今後の移住推進対策、空き家管理の課題を調査します。

※個人情報名古屋工業大学藤岡研究室にて厳重に管理し、調査結果には個人情報等は一切記載いたしません。

<調査の目的>



※回答すべて複数回答可ですので、思いついたことすべてお書きください。

1. 生い立ちについて

- ・氏名 : _____
- ・年齢 : 満 _____ 歳 ・性別 : 男 / 女
- ・家族構成 : _____
(記入例：4人家族 (夫+長女 (中2) + 長男 (小5))
- ・出身地 : _____
→加子母に住んだ経験 : Uターン者 / Iターン者
→Iターン者の方へ 中山間地域に住んだ経験 : あり / なし
- ・現在住んでいる地区名 : _____
- ・職歴 : _____
(記入例：サラリーマン (東京、2年)→トマト農家 (加子母、7年)
- ・加子母歴 : _____ 年

2. 移住について

*Uターン者の方へ

・移住理由

・元々住んでいた地区と同じか : Yes / No

→理由:

*Iターン者の方へ

<2-1 地域選定理由>

・加子母を訪れた経験: あり / なし

・訪れるきっかけ

→使用した情報収集手段 :

→その情報に満足したか : Yes / No

→その理由:

・初めて訪れたときの印象

・移住のきっかけ

・移住する地区の印象と選定理由

<2-2 移住後の生活について>

・何にギャップを感じ、とまどったか

→中山間地域ならでのこと:

→加子母ならでのこと :

→その他:

・地域の活動に積極的に参加しているか : Yes / No

→理由:

→Yesの方へ、どういう経緯で関わりを持ったか:

→何に参加したか:

・移住前に知りたい、知りたかった情報は何か

3. 住まいについて

<3-1 空き家に住もうまで>

・現在の住まいに至る経緯 (記入例: 家族向け市営アパート (地区名、2年)→空き家 (地区名、現在))

→移住の際、空き家は紹介されたか: Yes / No

→Yesの方へ、なぜ住まなかったか:

→住まいの紹介と一緒に、職、学校などの紹介はあったか: Yes / No

• どのように住まいの情報を仕入れたか

→情報の内容に満足したか : Yes / No

→理由:

→第三者の存在はあったか : Yes / No

→Yes (氏名: 役職:)

→第三者の介在に満足したか : Yes / No

→理由:

• 移住する際、何を知らなかったか

• なぜそこを選んだか

→地域について :

→人間関係について :

→その他 :

3-2 空き家について>

• なぜ空き家に移住しようと思ったか

• 空き家の情報はどのように仕入れたか

→情報の内容に満足したか : Yes / No

→理由:

→第三者の存在はあったか : Yes / No

→Yes (氏名: 役職:)

→第三者の介在に満足したか : Yes / No

→理由:

• 改修は必要だったか : Yes / No

→理由:

→どんな改修を行ったか :

→だれが行ったか :

→費用はどれくらいか :

→思い通りの生活環境にできたか : Yes / No

→その理由:

→その他:

• 家主との関係について

→関わりの深度 : 月 回程度交流する

→良好か : Yes / No

→理由:

→どのように関わっていきたいか

→実は家主さんに聞けなかったこと

・移住する前に空き家に関わることで、知りたい情報は何か

→住む地域について :

→空き家自体について :

→その他 :

・空き家移住で困ったこと

→あってよかったサポート

誰から :

何を :

→あってほしかったサポート

誰から :

何を :

→サポートは必要だと思うか : Yes / No

→誰からのサポートが必要だと思うか

行政 ・ 近隣住民 ・ 家主 ・ 同じ立場の人 (移住者)

その他 ()

→理由 :

・第三者 (近隣住民、家主以外) のサポートは必要だと思うか : Yes / No

→理由 :

→あってほしいサポート :

4. 最後に

・移住前と、移住後の加子母の印象は変化したか

・加子母のここが好きだ

・移住過程の満足度 (不満) 1 2 3 4 5 (満足)

→理由 :

・移住生活 (空き家) への満足度 (不満) 1 2 3 4 5 (満足)

→理由 :

・少子化検討委員会の存在を知っているか : Yes / No

→活動内容を知っているか : Yes / No

→賛成か : Yes / No

→理由 :

→やってほしいこと :

・その他意見・要望 (何でも構いません)

ありがとうございました。

<アンケート調査用紙（空き家入居未経験者）>

(*何か気がついたことがありましたら、こちらまでご連絡ください。)

1ターナー移住者の方へ

加子母における少子化対策に関する調査 —空き家活用の課題—

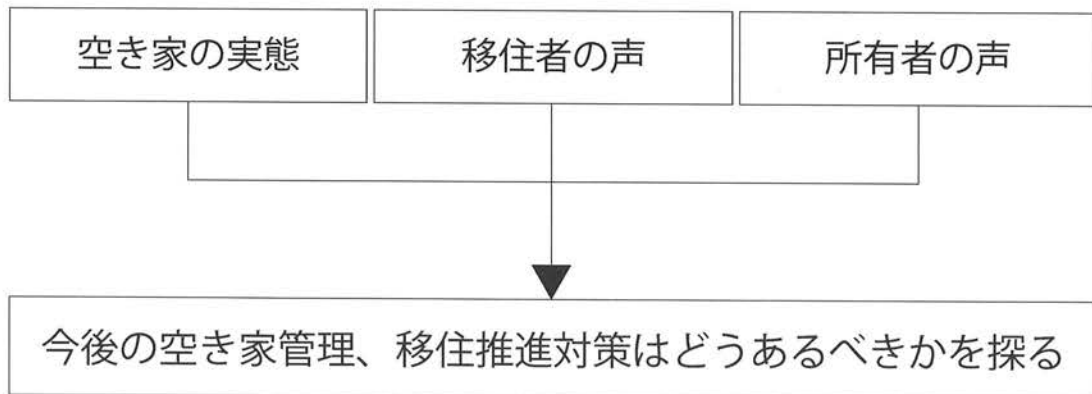
ご協力いただきありがとうございます。

この調査は、加子母における、少子化に伴う空き家対策のヒントを探るものです。

1ターナー移住者の方を対象に、加子母へ移住する過程や、移住後の生活、地域との関係、そして住まいに関することを分析することで、今後の移住推進対策、空き家管理の課題を調査します。

※個人情報名古屋工業大学藤岡研究室にて厳重に管理し、調査結果には個人情報等は一切記載いたしません。

<調査の目的>



※回答すべて複数回答可ですので、思いついたことすべてお書きください。

1. 生い立ちについて

- ・氏名 : _____
- ・年齢 : 満 _____ 歳 ・性別 : 男 / 女
- ・家族構成 : _____
- ・地区名 : _____
- ・出身地 : _____
- 加子母に住んだ経験 : あり / なし
- 中山間地域に住んだ経験 : あり / なし
- ・職歴 : _____
- ・在住歴 : _____
- ・その他 : _____

2. 移住について

<2-1 地域選定理由>

・加子母を訪れた経験： あり / なし

・訪れるきっかけ

→使用した情報収集手段 :

→その情報に満足したか : Yes / No

→その理由:

・初めて訪れたときの印象

・移住のきっかけ

・移住する地区の印象と選定理由

<2-2 移住後の生活について>

（ 何にギャップを感じ、とまどったか

→中山間地域ならでのこと:

→加子母ならでのこと :

→その他:

・地域の活動に積極的に参加しているか : Yes / No

→理由:

→Yesの方へ、どういう経緯で関わりを持ったか:

→何に参加したか:

・移住前に知りたい、知りたかった情報は何か

（ 移住で困ったこと

→あってよかったサポート

誰から:

何を:

→あってほしかったサポート

誰から:

何を:

→サポートは必要だと思うか : Yes / No

→誰からのサポートが必要だと思うか

行政 ・ 近隣住民 ・ 家主 ・ 同じ立場の人 (Iターン者)

その他 ()

→理由:

3. 住まいについて

<3-1 住まい選定理由>

- ・移住する際、どこに住まうことに決まったか

→その時、空き家は紹介されたか : Yes / No

→Yesの方へ、なぜ住まなかったか

→同時に、職や学校などの紹介があったか : Yes / No

- ・どのように情報を仕入れたか

→情報の内容に満足したか : Yes / No

→理由:

→第三者の存在はあったか : Yes / No

→Yes (氏名: 役職:)

→第三者の介在に満足したか : Yes / No

→理由:

- ・移住する際、住まいについて何を知りたかったか

→地域について :

→人間関係について :

→その他 :

- ・なぜその住まいを選んだか

→地域について :

→人間関係について :

→その他 :

<3-2 今後の住まいについて>

- ・引っ越しを考えた事がありますか : Yes / No

→どこへ引っ越しますか : 加子母外 ・ 加子母内
(現在と同じ地区 ・ 異なる地区)

→理由:

→住まいの種類の希望はありますか

アパート等賃貸 ・ アパート等購入 ・ 一軒家賃貸 ・ 一軒家購入

その他 ()

→理由:

- ・空き家利用をどう思うか : 賛成 ・ 反対

→理由:

・空き家への移住について

→ 可能 ・ 条件により可能 ・ 不可

*可能な方へ

・理由：

*条件による方へ

・どんな条件なら満足か

*可能・条件による方へ

・移住する前に空き家に関わることで、知りたい情報は何か

→住む地域について :

→空き家自体について :

→その他：

・第三者（近隣住民、家主以外）のサポートは必要だと思うか : Yes / No

→理由：

→あってほしいサポート：

*不可能な方へ

・理由：

4. 最後に

・移住前と、移住後の加子母の印象は変化したか

・加子母のここが好きだ

・移住過程の満足度 (不満) 1 2 3 4 5 (満足)

→理由：

・移住生活の満足度 (不満) 1 2 3 4 5 (満足)

→理由：

・少子化検討委員会の存在を知っているか : Yes / No

→活動内容を知っているか : Yes / No

→賛成か : Yes / No

→理由：

→やってほしいこと：

・その他意見・要望（何でも構いません）

ありがとうございました。

<アンケート調査結果>

むら協で少子化対策の検討がはじまりました。

人口減少は遠い将来のことではありません。課題は地域によって大きく異なりますし、少子化対策は早ければ早いほど効果があります。人口が急激に減少し、深刻な事態を迎える前に「地域の問題は地域で決める」という考えのもと、地域住民自身の主導で長期的で総合的、多様な取り組みを行う必要があります。むら協では10の分科会から委員を出し、「第1回むら協少子化対策検討委員会」で、小グループに分かれて現在の加子母がかかえる問題をざっとひろいあげることからはじめました。2時間という短い時間でしたが、出た課題は以下のように多くあります。次回からさらに課題を多く拾いあげて対策を考えていくことになっています。



- 高校通学が一番大変。高校へ通わせるのが不便。高校や大学が遠い。学校（高・大）がな3生活が便利な都会の学校へ行く。
→大学の誘致、域学連携、特色ある教育ができる学校に。
- 働く場所がない。働き口が少ない。働く環境が劣悪である。若い女性が働く場所がない。若者にカネがない。給料が安い。仕事に魅力がない。職場として社会保障はいいのか？給与は？住む場所がない。親の仕事の状況によってちがう。（自営業等）やりたいことができない。
→地域資源を活用した仕事、季節で変える仕事（夏はトマト、冬は山のインストラクター）起業できる若者を育てる。販売納入先を確保した農場や加工産物をつくる。
- すでに移住した人と、これからする人の支援システムがない。住む場所がない。都会育ちの女性が住みづらい。若い女性がいらない。田舎は人間関係が濃い。
→1ターン住民のサポート体制をつくる。
- 結婚したいけどできない。出会いの場がない。交流の機会や場もない。共通の話題や目的、遊びが少ない。現実には出会いがない。自分からいけない。
- 都会への憧れがある。加子母だけでは野心を満足させられないので出て行く。
→情報網を使って加子母のよさをPRして人を呼ぶ。住む所（加子母）と働く所（町）を分ける。
- 住環境はいいのか？住宅制度の変更が必要？
→空き家を活用する。仏様の永代供養堂の建設など管理の方法を考える。
- 交通手段（環境）が悪い。車以外の交通手段がない。病院が遠い。生活が不便。
→道路の整備（濃飛横断自動車道）
- 自分ひとり主義の増加。世代により考え方や価値観、教育がちがう。家庭にしぼりつけられたくない反面、結婚はしたいという心理。
→子育てする魅力ある環境づくり、子どもを育てる環境づくり。子育てのよさのPR。



「かしもむら協だより」

（加子母むらづくり協議会，平成27年9月24日発行）

かしもむら協ニュース

平成27年9月24日 第27号

《発行》加子母むらづくり協議会

NPO法人かしもむら

「NPO法人かしもむら」正会員・賛助会員が全世帯の61%になりました。

9月10日現在、全世帯の約61%（968世帯中532世帯）の方が「NPOかしもむら」の正会員または賛助会員になりました。市外や名古屋市、愛知県、東京、新潟などの方からの入会も増え、寄付金もありました。パンフレットも50部単位であちこちの加子母関係の団体に配布されていますので今後加子母の外から加子母を支援する人が増えるでしょう。加子母むらづくり協議会とNPOかしもむらは相に補完しあって加子母の住民の暮らしを守る行政の部分を担当していますので、なるべく加子母の全住民で支えていきたいものです。

コミュニティバスが「NPOかしもむら」に管理委託されます。

平成27年10月1日からコミバスの運営が中津川市からNPOかしもむらに管理委託されることになりました。10月から全市で有料（料金200円、定期・回数券は1000円）になり、民間に委託先が見つからないため、NPOかしもむらが引き受けて運営することになりました。NPOが委託管理するのは、加子母と付知と阿木のNPOです。バスの巡回ルートは従来と変わりません。

むら協の少子化対策検討委員会が「空き家と入居希望者」を調査中です。

昨年末の12月に発足した少子化対策検討委員会（むら協の10分科会の代表から構成）は月1回の会議を行い、加子母の空き屋調査をしています。アンケートや調査が進むにつれて、何人かの入居希望者もできました。主に加子母の関係者や住宅居住者が多いですが、良い方向性が出てきたと思います。名工大の学生数人も毎回参加。「子育てしやすい環境づくりチーム」と「転入者増加対策チーム」をつくって対策を検討しています。

「NPOかしもむら」から助成金を交付します。

「NPOかしもむら」の総会で承認されたので、次の4つの加子母行事に5万円ずつ助成します。

- ① 加子母夏祭り（5万円）
- ② うまいもん祭り（5万円）
- ③ 加子母体育祭（5万円）
- ④ 加子母文化祭（5万円）

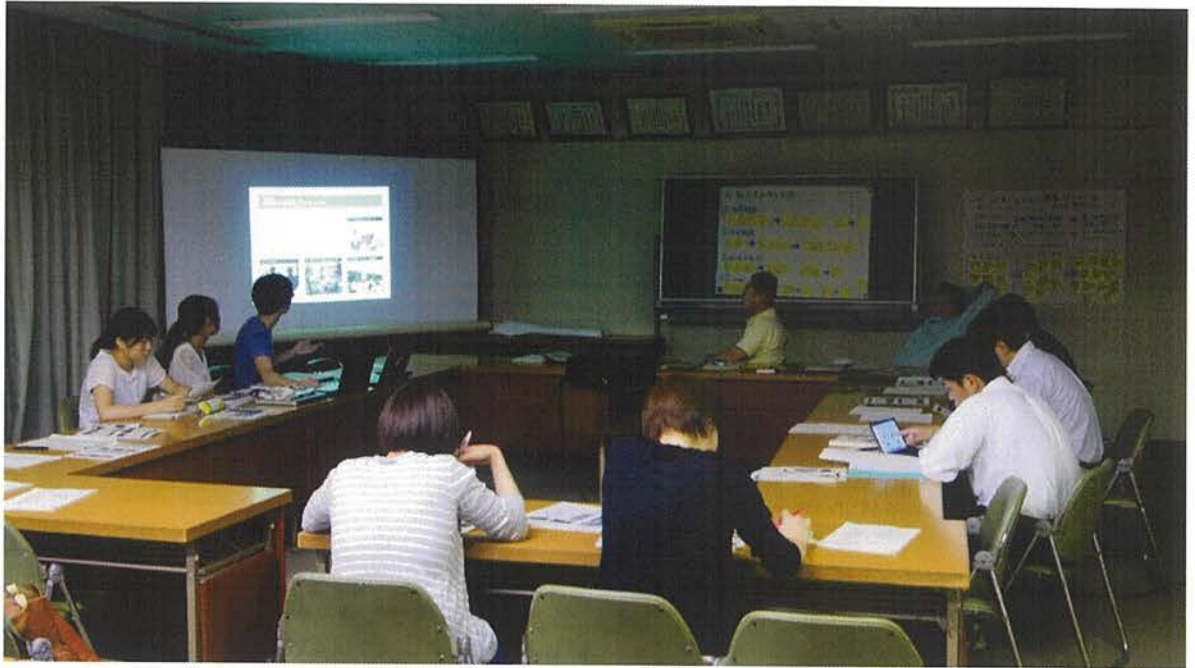
「かしもむら協ニュース」

（加子母むらづくり協議会・NPO法人かしもむら，平成27年9月24日発行）

＜聞き取り調査 意見まとめ＞

	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代にとって魅力的な地域をつくってほしい ・まずは子供のことをやってほしい ・子育て環境は充実とは言い切れない ・子供がたくさんいることをアピールすれば、移住も増えるのでは。 ・移住してくるのは子供が小さいとき。 	<p>具体的施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本のリサイクルショップ ・駄菓子屋 ・図書館を特色ある、充実したものにしてほしい ・子供たちがのびのび遊べる広場(どんぐりや松ぼっくりなど季節を感じながらあそべるような) ・子供達が安全に遊べる場づくり ・若い人たちが積極的に外に出す行事の企画 ・むらづくり協議会に中学生・高校生を入れる ・気軽に楽しめる行事
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化は困る ・もう少し子供が増えてほしい ・保育園・学校の特徴が知りたかった ・先生不足は致命的 ・ファンサポが人不足で機能していないのはもったいない。 ・ファンサポは、システムとなると、顔が見えず、神で紹介されても不安。 ・一時保育や、いざというときに頼めるネットワークがほしい ・ファンサポは、口コミで広がっていくのがいい ・高校・大学の問題。移住前に知っていたら、やめていたかもしれない ・高校・大学があると助かる ・移住者が多い＝移住者は生活しやすい ・共感できる場がほしい ・地区によって特色が違う ・移住後のサポートは充実とはいえない ・遊の人の地図と名簿がほしい。名前がわからないから話についていけない ・失礼のない付き合い方をしたいが、区費・常金のシステムがわからない。どの行事に参加するかは取捨選択できない ・市営住宅の地区は、移住者が多く、地区の人も外の人に慣れている。別の地区は、外の人の気持ちかわからない。 ・わかっている人たちの中でわからなくても動かなくてはいならないことに戸惑った。 ・地域ならではのことやルールがわからない ・祭りやお祝儀など、知っている屋で話が進んでいく ・地区の行事やその繰り返しは事前に知りたかった ・移住者が増えすぎると、加子母の伝説が薄れていってしまう。ちゃんと伝説を学ぼうとしてくれる人に来てほしい ・里山暮らし体験館がよかった。一泊すると、ゆっくり見て回れる。その際に、相談できる時間がほしい。 ・加子母のいいところだけでなく、悪い部分も聞きたかった ・入るときに、ここはこういうところだと事前にわかるもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校行きバス代金金額補助 ・中津川市内に高校生のための食事付き寮 ・移住者交流会 ・なんでも相談窓口 ・同じ班の世話役をつける ・地域の人の名簿 ・地域のルールブック
<p>移住推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス以外の交通手段がない。合併より、バスが廃止する噂があり、加子母の人々にとっては致命的。住みにくくなる＝人口減少なので。 ・店が遠く、物を手に入れるのが大変 ・近くに図書館やお医者さんはあるか知りたかった ・移住するときは仕事もセットで考えてくる ・中津川市のハローワークに行っても、加子母の仕事情報が出てこない ・地域のつながりを上手くやっていかないと住みづらい ・独り身で入ったから、地域の人の圧力は感じた ・子供が生まれるまで、地域の人が受け入れられた感じはしなかった ・よそ者を受け入れてくれるか不安だった ・雪の多さに戸惑った ・今、ここに住んでいる地域の人たちが、加子母にいいから十分に満足し、楽しめることを増やしていくのがいいのでは。 ・タウンよりもUターンを増やしてみるのはいかがでしょうか。 ・空き家に関しては、貸す側も、借りる側も初めて。どんなトラブルが起きうるかさえわからない。 ・契約書をつくるなら、誰かをお願いしたい。特に購入する際。 ・空き家に住まわせるのは、市営住宅よりもメリットをつくるべき ・Uターンの住まいの選択肢は、①実家②市営住宅(家賃高い、必ず空いているわけではない)③付知(近所付き高くないが、安くはないが固定家賃)④空き家(情報が出てこない) ・町ことはわからないから、地元の人に、この家族にはこの家というように選んでもらいたい ・空き家情報を知りたくても、どこに聞けばいいのかわからない ・移住したくても、手頃な家の中々見つからなかった ・お金を貯めたい、家を建てる費用がないから、空き家がいい ・役場の人が住宅を案内してくれたが、空きがありませんと言われた ・移住して、まずは安い家賃で暮らせるところがあればありがたい ・加子母の物件を扱う不動産屋さんがほしい ・空き家ツアーと、そのときなんでも聞くことができる担当者がほしい ・ちゃんと住めるか、空き家の耐久性を示してほしい ・常に若干の不安を感じながら住まなければならぬ。耐久性も、借りているので、このまま住めるかどうか。家賃以外にかかる費用、必要になるもの、どんな修理工をしなければならぬか知りたい ・水廻りは大丈夫か ・兄弟・親戚が周りにいる。家に愛着のある人からの監視を感じてしまう。 ・空き家のいらぬものをどこに捨てたらいいのかわからない ・家主さんに、近所の方の紹介してもらえたら助かる ・何かわからないときにさりげないフォローがほしい ・どんな地域か、班の人の付き合い方など一輪に知りたい ・区費・班費知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎暮らし案内、パンフレット ・安全で、量り売りができる食材の購入先がほしい ・生活情報案内 ・仕事情報 ・移住後のサポート
<p>空き家対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の過程を示す相談役がほしい ・空き家の情報窓口 ・空き家ツアーの開催 ・住まいの相談役 ・空き家の状態がわかる専門家 ・改修の費用の補助金制度 ・道具のレンタル ・空き家周りの地域に関するサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の情報窓口 ・空き家ツアーの開催 ・住まいの相談役 ・空き家の状態がわかる専門家 ・改修の費用の補助金制度 ・道具のレンタル ・空き家周りの地域に関するサポート

<活動記録>



第8回会議に参加したときの様子（平成27年7月17日）



実際に加子母内を歩き、調査を行ったときの様子（平成27年7月15日）